

少子化の見通しに関する有識者調査
(デルファイ調査)

少子化の見通しに関する有識者調査

デルファイ調査の概要

厚生労働科学研究

「少子化関連施策の効果と出生率の見通しに関する研究」

課題番号 H17-政策-017

(分担研究者：安藏伸治明治大学教授)

1. 調査概要

本調査は、2001年に実施された「少子化の見通しに関する専門家調査」(厚生労働科学研究費「少子化に関する家族・労働政策の影響と少子化の見通しに関する研究」(課題番号 H11-政策-009)にて実施)の後継となる調査である。今回は、厚生労働科学研究費「少子化関連施策の効果と出生率の見通しに関する研究」(主任研究者・高橋重郷、課題番号 H17-政策-017)の中で、研究プロジェクトとして以下のメンバーで「少子化研究会」を結成し、調査を実施した。

分担研究者 安藏 伸治 (明治大学教授)
研究協力者 加藤 久和 (明治大学教授)
研究協力者 新谷由里子 (武蔵野大学非常勤講師)
研究協力者 君島 菜菜 (大正大学非常勤講師)
研究協力者 守泉 理恵 (国立社会保障・人口問題研究所)
研究協力者 福田 節也 (明治大学助手)
研究協力者 鎌田 健司 (明治大学助手)
オブザーバー 中島 満大 (明治大学大学院)
調査実施機関：(株)アジュール

1. 調査目的

本調査は、人口、経済、家族、医療、公衆衛生などの分野に専門的知識を有する研究者を対象として、日本の少子化に関する動向や政策課題を中心に意見を聞き、今後の少子化関連施策の展開に当たって基礎資料を提供することを目的とした。

2. 調査方法および調査時期

本調査では、有識者の予測の方向性を明確に見出すため、デルファイ法を採用した。デルファイ法とは、多数の人に同一のアンケート調査を複数回行い、回答者の意見を収斂させる方法です。第2回目の調査では、第1回目の調査結果が併記されており、他回答者の意見を考慮に入れて再度回答を行なうため、ある程度意見が集約されるというものである。

この調査は、郵送法にて実施し、

第1回目の調査は、

平成17年11月11日（金）～12月12日（月）に実施
 発送数は1,088票、有効票は389票、有効回収率は35.8%

第2回目の調査は、

平成18年4月25日（火）～6月12日（月）に実施
 発送数は1,088票、有効票は271票、有効回収率は25.8%

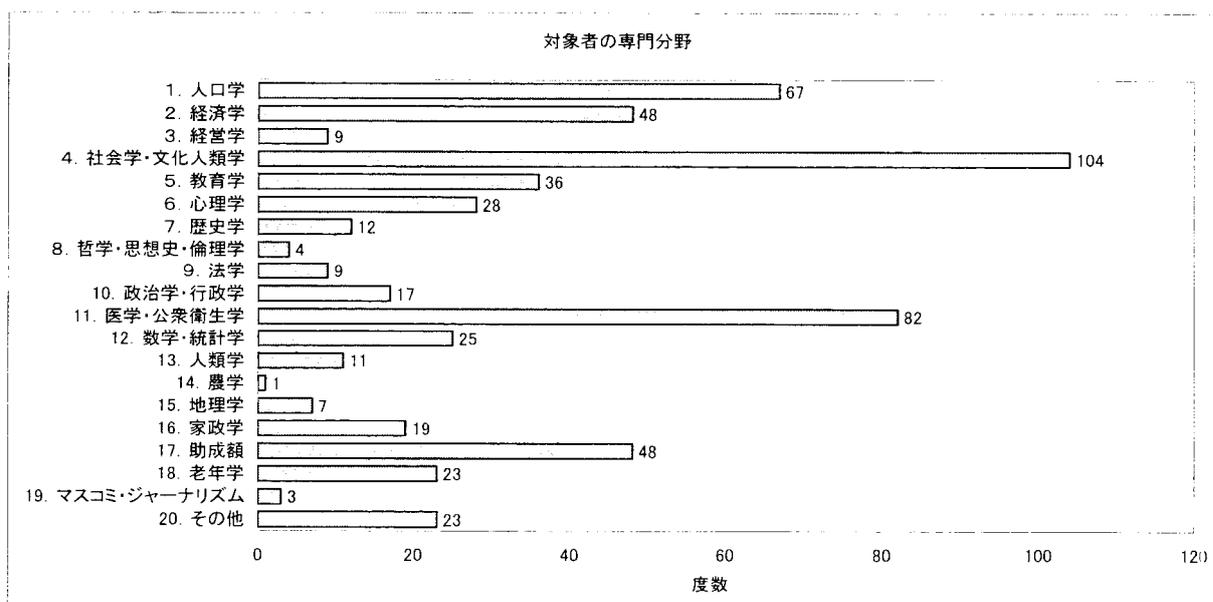
第2回目の調査は、第1回目と同一の方々に送付した。また、第2回目の調査票には第1回目の調査結果を添付した。

3. 回答者の属性

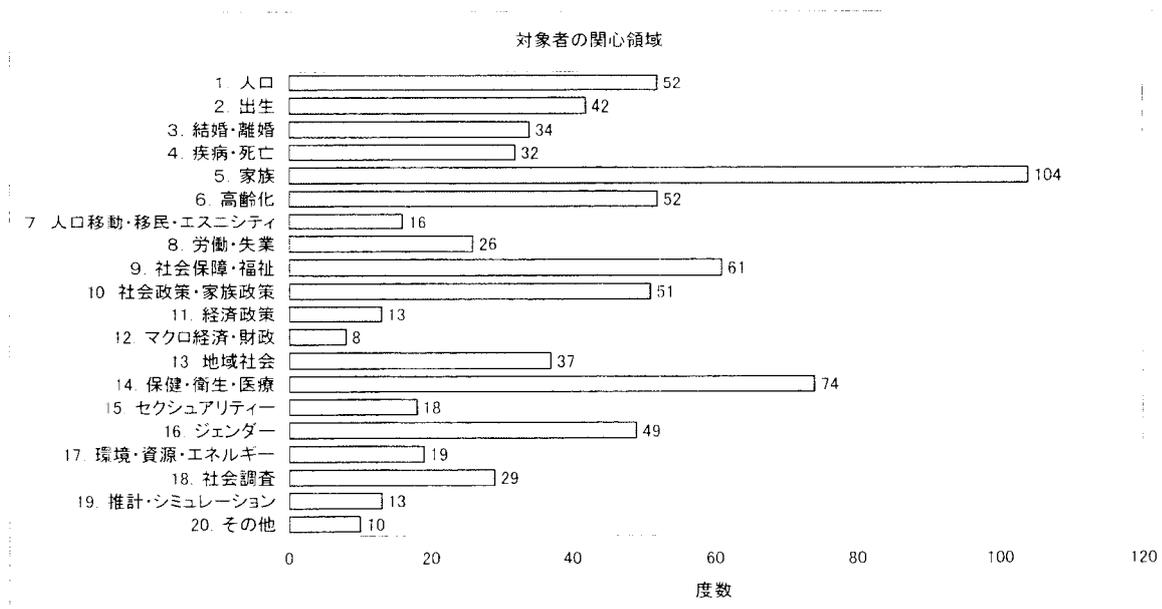
a. 回答者の年齢分布

統計指標	第2回			第1回		
	男性	女性	総数	男性	女性	総数
度数 有効	160	104	264	217	160	379
欠損値	1	2	7	0	0	10
平均値	54.27	49.97	52.58	52.75	48.39	50.28
平均値の標準誤差	0.80	1.14	0.67	0.78	1.10	0.59
中央値	56.00	50.00	53.00	53.00	47.00	50.00
最頻値	58.00	57.00	57.00	60.00	40.00	57.00
標準偏差	10.13	11.58	10.91	11.55	13.87	11.57
分散	102.61	134.20	119.02	133.51	192.47	133.77
最小値	30.00	27.00	27.00	28.00	26.00	26.00
最大値	81.00	75.00	81.00	99.00	99.00	81.00

b. 専門分野別分布



c. 関心領域



II. 調査結果

1. 「少子高齢化社会」について

(1) 「少子化」の今後

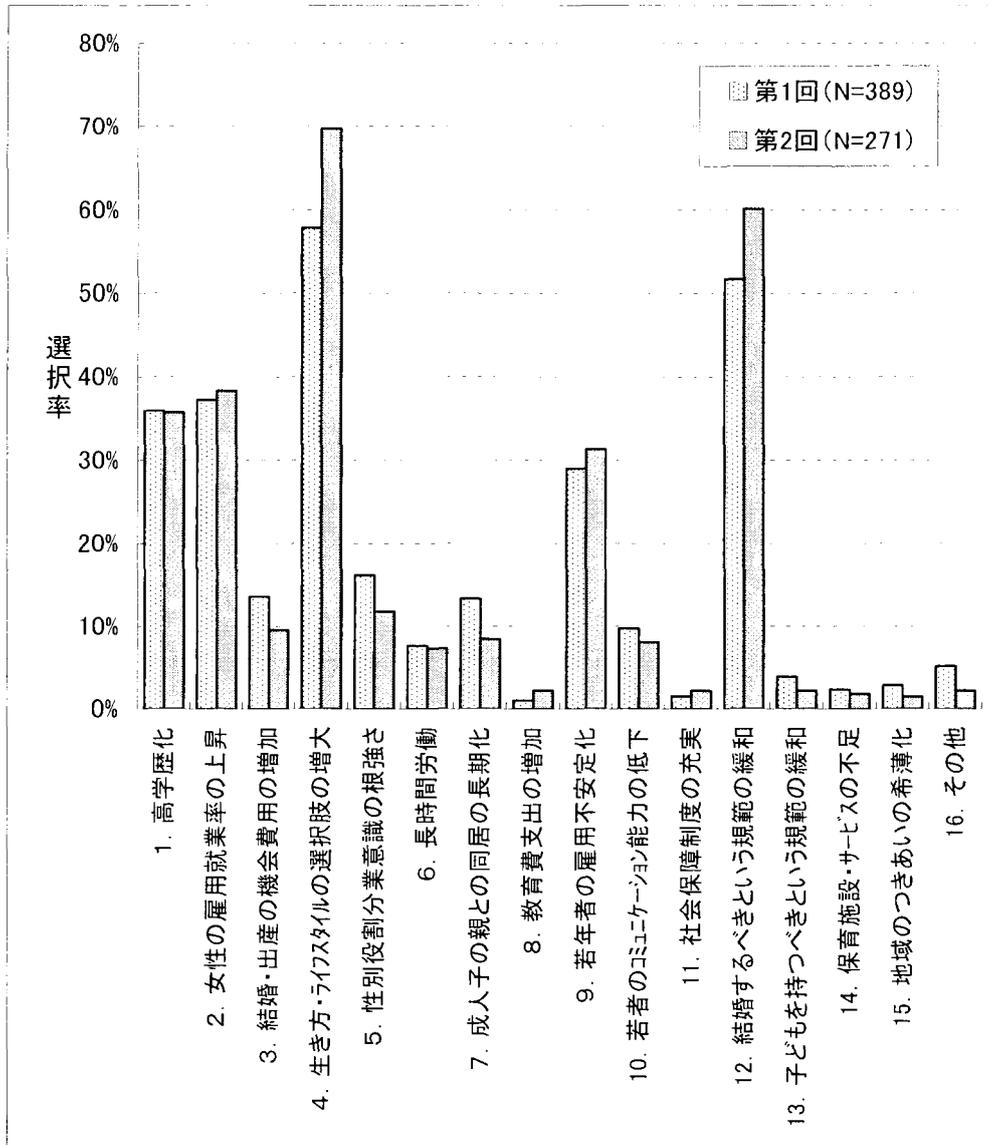
「少子化」の流れの今後	第2回		第1回	
	度数	パーセント	度数	パーセント
少子化の流れは、いずれ回復する	19	7.0	42	10.8
少子化の流れは、今後も進む	192	70.8	256	65.8
現在の水準程度で推移する	60	22.1	89	22.9
不詳	—	—	2	0.5
合計	271	100.0	389	100.0

(2) 「少子化対策」実行の是非

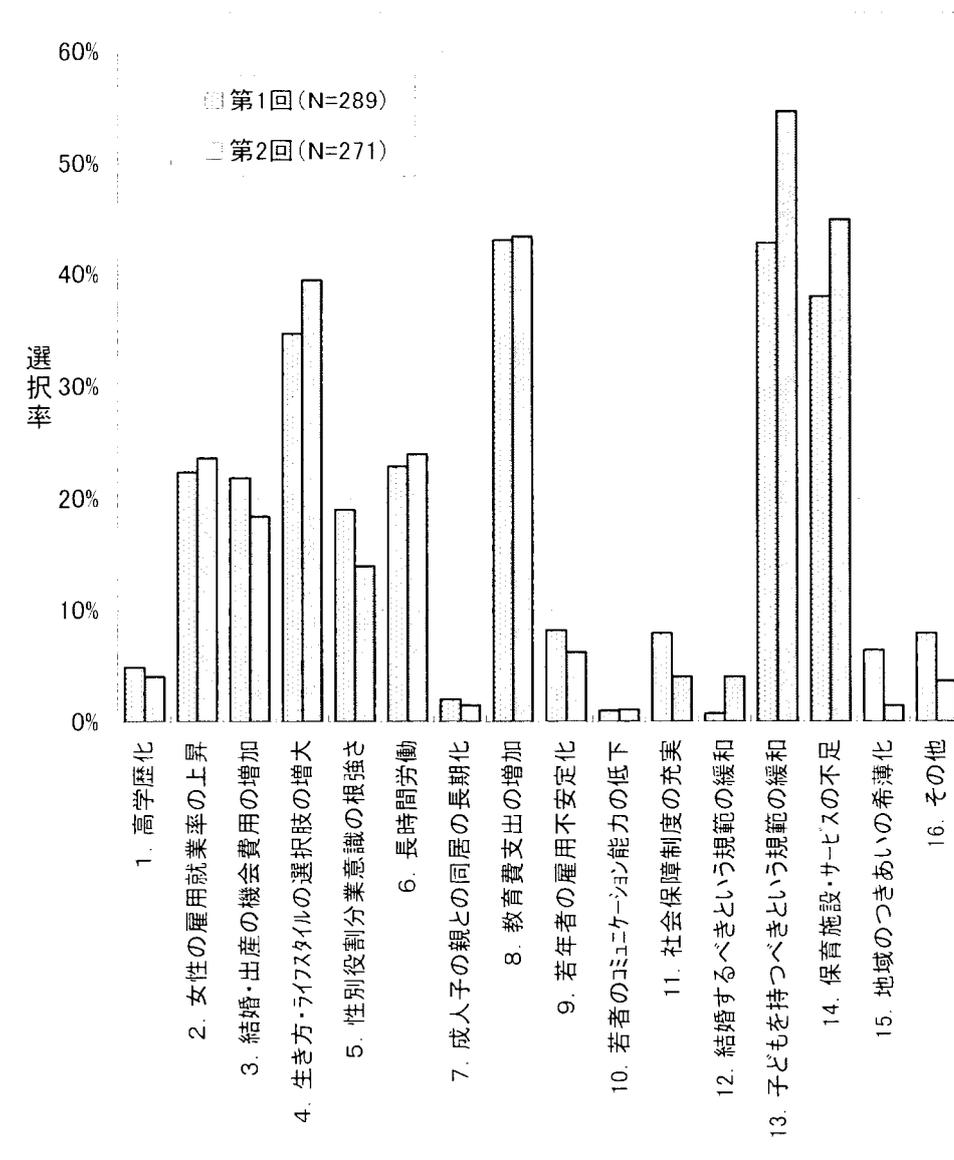
「少子化対策」実行の是非	第2回		第1回	
	度数	パーセント	度数	パーセント
少子化対策は、行うべきである	239	88.2	325	83.5
少子化対策は、必要ない	26	9.6	48	12.3
わからない	4	1.5	11	2.8
不詳	2	0.7	5	1.3
合計	271	100.0	389	100.0

(3) 少子化の主因とされる結婚行動の変化（未婚化・晩婚化・非婚化）と、第二の要因と考えられる夫婦の出生行動の変化（出生のテンポの遅れ・少産化）について

(ア) 結婚行動の変化について



(イ) 夫婦の出生行動について

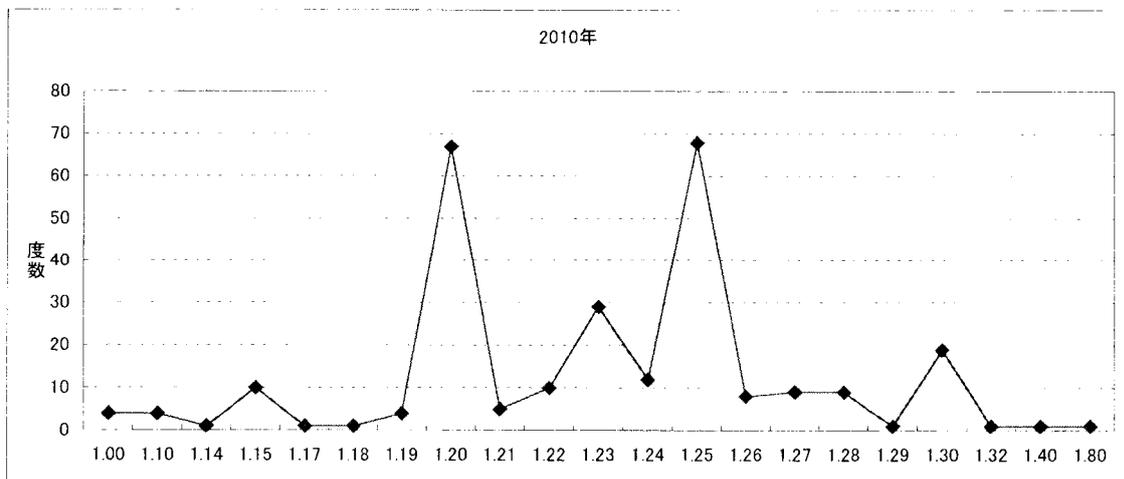


2. 「将来の人口の動き」について

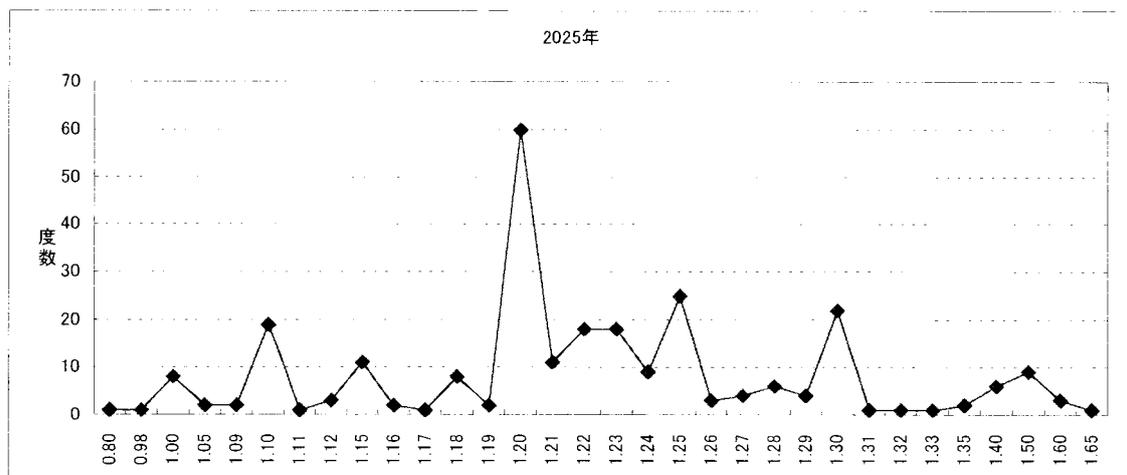
(1) 合計出生率の予測

統計指標	2010年合計出生率		2025年合計出生率		2050年合計出生率	
	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回
度数	265	375	265	371	265	363
有効 欠損値	6	14	6	18	6	26
平均値	1.230	1.227	1.225	1.221	1.255	1.245
平均値の標準誤差	0.004	0.004	0.006	0.008	0.011	0.013
中央値	1.230	1.250	1.220	1.200	1.230	1.200
最頻値	1.250	1.200	1.200	1.200	1.200	1.100
標準偏差	0.060	0.081	0.105	0.154	0.183	0.250
分散	0.004	0.007	0.011	0.024	0.033	0.062
最小値	1.000	0.900	0.800	0.700	0.900	0.450
最大値	1.800	1.800	1.650	2.000	2.100	2.100

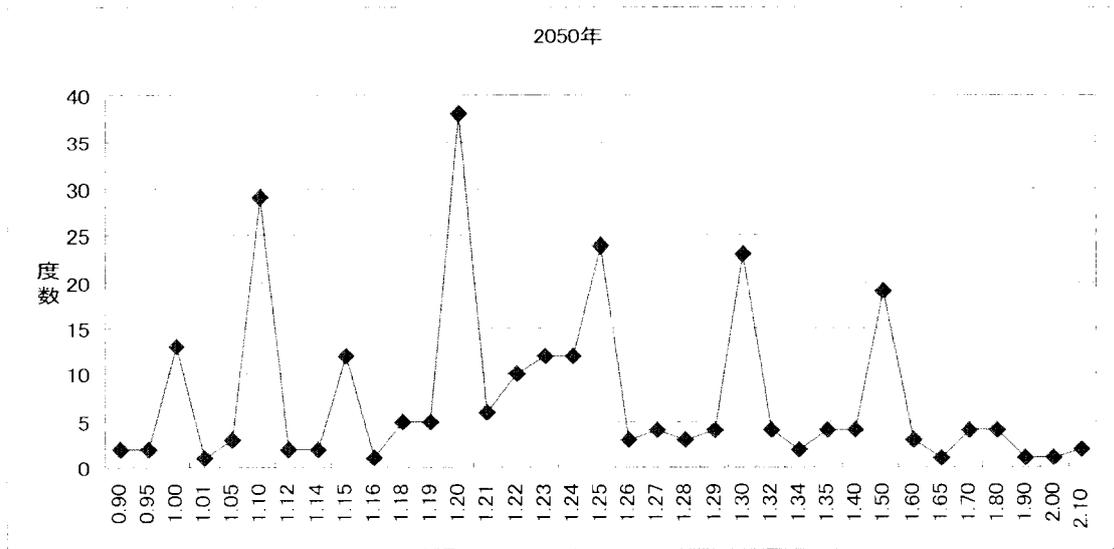
a. 2010年の合計出生率の予測分布（第2回調査）



b. 2025年の合計出生率の予測分布（第2回調査）



c. 2050年の合計出生率の予測分布（第2回調査）



(2) 平均寿命の予測

統計指標	男性				女性			
	2025年平均寿命		2050年平均寿命		2025年平均寿命		2050年平均寿命	
	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回
度数 有効	265	376	265	370	264	376	264	369
欠損値	6	13	6	19	7	13	7	20
平均値	79.428	79.429	80.238	80.216	86.103	86.327	86.722	86.924
平均値の標準誤差	0.123	0.118	0.246	0.240	0.148	0.137	0.249	0.252
中央値	79.760	80.000	80.000	80.000	86.000	87.000	87.000	88.000
最頻値	80.000	80.000	80.000	80.000	86.000	87.000	87.000	90.000
標準偏差	2.010	2.295	4.002	4.609	2.397	2.659	4.054	4.835
分散	4.039	5.265	16.014	21.244	5.748	7.073	16.433	23.373
最小値	65.000	70.000	55.000	65.000	68.000	70.000	60.000	67.000
最大値	90.000	88.000	95.000	100.000	95.000	93.000	105.000	110.000

a. 男性の平均寿命の予測分布（第2回調査）

